

作成日 2020/04/06

改訂日 2023/03/01

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	プロ用ハチ駆除剤
整理番号	1464
供給者の会社名称	大日本除蟲菊株式会社
住所	大阪市西区土佐堀1-4-11
担当部門	お客様相談室
電話番号	06-6441-1105
推奨用途	殺虫剤

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

物理化学的危険性 健康有害性	エアゾール 区分1 急性毒性(吸入:粉じん、ミスト) 区分4 皮膚腐食性/刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2A 生殖毒性 区分2 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(中枢神経系 全身毒性 循環器系) 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(麻酔作用) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(血液系 中枢 神経系) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(肝臓 呼吸器 脾臓)
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性) 区分1 水生環境有害性 長期(慢性) 区分1 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しない か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示

注意喚起語
危険有害性情報

危険
H222 極めて可燃性の高いエアゾール
H229 高压容器:熱すると破裂のおそれ
H315 皮膚刺激
H319 強い眼刺激
H332 吸入すると有害
H336 眠気又はめまいのおそれ
H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
H370 循環器系、全身毒性、中枢神経系の障害
H372 長期にわたる、又は反復ばく露による血液系、
中枢神経系の障害
H373 長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓、呼
吸器、脾臓の障害のおそれ
H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強
い毒性

注意書き
安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠
ざけること。禁煙。(P210)
裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。(P211)
使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
(P251)
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入し
ないこと。(P260)
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこ
と。(P270)

応急措置

環境への放出を避けること。(P273)
 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)
 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。(P302+P352)
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。(P308+P313)
 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314)
 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。(P332+P313)
 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313)
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。(P362+P364)
 漏出物を回収すること。(P391)
 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)
 日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。(P410+P412)
 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

保管

廃棄

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
モンフルオロトリン	不開示	C19H19F4 NO3	—	4-(7)-2338	609346-29-4
d-T80-レスメトリン	不開示	C22H26O3	(9)-1306	既存	10453-86-8
イソプロピルアルコール	不開示	CH3CH(O H)CH3	(2)-207	既存	67-63-0
ケロシン(灯油)	不開示	—	—	—	不開示
液化石油ガス(LPG)※ブタン含む	不開示	—	—	—	不開示
ジメチルエーテル(DME)	不開示	CH3OCH3	(2)-360	既存	115-10-6

4. 応急措置

吸入した場合

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

眼に入った場合

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

		飲み込んだ場合、気分が悪いときは、医師に連絡すること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。
5. 火災時の措置		
適切な消火剤		周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。 粉じんが発生している時は乾燥砂を用いる。 棒状水。 燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。 消火作業は、風上から行う。 周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 関係者以外は安全な場所に退去させる。 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。
使ってはならない消火剤		
火災時の特有の危険有害性		
特有の消火方法		
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置		
6. 漏出時の措置		
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置		作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。 多量の場合、人を安全な場所に退避させる。 必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項		漏出物は回収すること。 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材		少量の場合、吸着剤(土・砂・ウエスなど)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾などでよく拭き取る。大量の水で洗い流す。 多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラムなどに回収する。
二次災害の防止策		付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。 床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。 漏出物の上をむやみに歩かない。
7. 取扱い及び保管上の注意		
取扱い	技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
	安全取扱注意事項	使用後を含め、穴をあけたり燃したりしないこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
保管	接触回避 安全な保管条件	『10. 安定性及び反応性』を参照。 『10. 安定性及び反応性』を参照。 日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。 日光から遮断すること。 施錠して保管すること。 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
8. ばく露防止及び保護措置		

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
イソプロピルアルコール	200ppm	【最大許容濃度】 400ppm(980mg/m ³)	TWA 200 ppm, STEL 400 ppm
ブタン	未設定	500ppm(1200mg/m ³)	TWA -, STEL 1000 ppm (EX)
d-T80-レスメトリン	未設定	未設定	未設定
モンフルオロトリン	未設定	未設定	未設定

設備対策

蒸気、ヒューム、ミストまたは粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。
取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。

保護具

呼吸用保護具

必要に応じて、適切な呼吸器用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用すること。

眼、顔面の保護具

保護眼鏡、保護面を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

エアゾール

形状

液体

色

無色～微黄色澄明(原液)

臭い

特異なにおい

融点／凝固点

データなし

沸点又は初留点及び沸点範囲

データなし

可燃性

データなし

爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界

データなし

引火点

20℃(原液)

自然発火点

データなし

分解温度

データなし

pH

データなし

動粘性率

データなし

溶解度

データなし

n-オクタノール／水分配係数

データなし

蒸気圧

データなし

密度及び／又は相対密度

0.764(20℃)(原液)

相対ガス密度

データなし

粒子特性

データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

通常取扱条件において反応性なし。

化学的安定性

通常取扱条件において安定である。

危険有害反応可能性

情報なし

避けるべき条件

情報なし

混触危険物質

情報なし

危険有害な分解生成物

情報なし

11. 有害性情報

急性毒性

経口

分類できない

経皮

分類できない

吸入

(気体)

GHS定義による気体ではない。

(蒸気)

分類できない

(粉じん・ミスト)

原料情報より、区分4

皮膚腐食性／皮膚刺激性

原料情報より、区分2

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

原料情報より、区分2A

呼吸器感作性

分類できない

皮膚感作性

分類できない

生殖細胞変異原性

分類できない

発がん性

分類できない

生殖毒性	(生殖毒性)	原料情報より、区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	(生殖毒性・授乳影響)	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		原料情報より、区分1(全身毒性、中枢神経系、循環器系)
誤えん有害性		原料情報より、区分3(麻酔作用)
		原料情報より、区分1(血液系、中枢神経系)
		原料情報より、区分2(肝臓、呼吸器、脾臓)
		分類できない
12. 環境影響情報		
水生環境有害性 短期(急性)		原料情報より、区分1
水生環境有害性 長期(慢性)		原料情報より、区分1
生態毒性		データなし
残留性・分解性		データなし
生体蓄積性		データなし
土壌中の移動性		データなし
オゾン層への有害性		分類できない
13. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
汚染容器及び包装		内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。 焼却に際しては引火性物質を含むので注意して行う。
14. 輸送上の注意		
国際規制	海上規制情報 航空規制情報 国連番号 品名 クラス 容器等級	IMOの規定に従う。 ICAO/IATAの規定に従う。 1950 エアゾール 2.1 -
国内規制	陸上規制 海上規制情報 航空規制情報	消防法の規定に従う。 船舶安全法の規定に従う。 航空法の規定に従う。
緊急時応急措置指針番号		126
15. 適用法令		
労働安全衛生法 2024/03/31まで		表示対象物質 ブタン(政令番号:482) プロピルアルコール(政令番号:494)
		通知対象物質 ブタン(政令番号:482) プロピルアルコール(政令番号:494)
2024/04/01以降		表示対象物質 ブタン(政令番号:482) プロピルアルコール(政令番号:494)
		通知対象物質 ブタン(政令番号:482) プロピルアルコール(政令番号:494)
毒物及び劇物取締法		非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)		
2023/03/31まで		非該当
2023/04/01以降		非該当
消防法		第4類 引火性液体 第一石油類(非水溶性)

16. その他の情報

連絡先

緊急連絡先: 処置法など、医師から下記に電話してお尋ねください。

公益財団法人 日本中毒情報センター(中毒110番)
大阪(365日,24時間対応):

- ・一般専用電話(無料) 072-727-2499
- ・医療機関専用有料電話 072-726-9923

つくば(365日,9-21時対応):

- ・一般専用電話(無料) 029-852-9999
- ・医療機関専用有料電話 029-851-9999

参考文献

JIS Z 7252:2019

JIS Z 7253:2019

その他

改訂履歴

作成日 2020年04月06日

改訂日 2023年03月01日

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関してはいかなる保証をなすものではありません。定められた用途及び使用上の注意事項に従ってご使用ください。